

会 議 記 録

会議名	杉並区立子ども・子育てプラザ高円寺における一時預かり事業運営業務受託者候補者選定委員会の開催について（第3回）
日時	令和6年11月14日(木) 18時00分から20時20分まで
場所	第6会議室（西棟6階）
出席者	<p>白百合女子大学 人間総合学部 教授：菅原 ますみ</p> <p>和光大学 現代人間学部 准教授：韓 仁愛</p> <p>杉並区私立保育園連盟 副会長：澤津 弘</p> <p>杉並区子ども家庭部長：松沢 智</p> <p>杉並区子ども家庭部保育施設担当課長：有吉 俊輔</p>
	<p>事務局 地域子育て支援課長 岡本 幸子</p> <p>地域子育て支援課子育て支援係長 三村 量平</p> <p>地域子育て支援課子育て支援係主査 今井 菊美</p> <p>地域子育て支援課子育て支援係 安倍 瑛奈</p> <p>地域子育て支援課子育て支援係 佐々木 遥</p> <p>地域子育て支援課子育て支援係 森 陽菜</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・資料1 第二次審査タイムスケジュール</li> <li>・資料2 事業者に対する質問一覧</li> <li>・資料3-1 第二次審査評価表（下書き版）</li> <li>・資料3-2 第二次審査評価表（清書版）</li> <li>・資料4 評価基準</li> <li>・資料5 第一次審査評価表</li> <li>・資料6 第二次審査集計結果（審査終了後に配布）</li> <li>・参考1 留意事項（事業者宛）</li> <li>・参考2 第一次審査集計結果</li> </ul>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第二次審査の進行確認</li> <li>2 第二次審査（プレゼンテーション・ヒアリング・採点）</li> <li>3 採点集計結果発表、受託者候補者の決定、講評</li> </ol>

事務局より、本日の進め方、第一次審査の結果、第二次審査の進め方について説明を行った。  
本日、プレゼンテーション・質疑応答を行い、第一次審査及び第二次審査の各委員の採点結果をもとに本選定委員会の受託者候補者を選定する旨、説明を行った。

事業者のプレゼンテーションに対し、質疑応答、審査を行った。

【A 事業者への質疑】（「・」は委員の発言、「→」は事業者の回答を示す）

・地域の子育て支援拠点における一時預かり事業の果たす役割及び子ども・子育てプラザとの連携で重要と考える点は何か。

→住宅や子育て世帯が多い地域であると感じている。短い時間の預かりでも、保護者間での交流が生まれている様子を見ると、地域の中で子育てを支えていく必要があると考えている。プラザの職員とは、それぞれの利用状況の共有などを通して、気になる利用者を両方の職員で見守っている。

・職員の心身の健康保持のために留意している点は何か。

→定期的に本部の職員が巡回し面談を行っている。面談以外にも、普段の声掛け等のコミュニケーションや対話を重要視している。

・異年齢児の一時預かりで、特に重要と考える点は何か。

→ひと部屋の中で空間を分けて、それぞれの年齢ごとに満足できるような活動をしていくことを心掛けている。年齢ごとに分けるだけではなく、異年齢児同士で交流ができるように、保育者が仲立ちとなり促すこともある。

・子どもの権利を尊重するため、子どもとの関わりで気を付けていることは何か。

→1人1人の個性を認めて、丁寧に子どもの気持ちを扱うように心掛けている。

・子どもの虐待が疑われる場合の対応として重要と考える点は何か。

→明らかに不自然な様子がある場合は、まずは職員間で共有し、相談が必要だと判断したものは区に情報提供する。保護者には、不安を与えないような普段通りの対応を心掛けている。

・保護者の意見・要望への対応、保護者支援について重要だと考える点はなにか。

→予約が取りづらいという声に対しては、「キャンセルが出ることもあるから何回か連絡してほしい」と案内するようにしている。受け入れ時には、子どもの健康状態や好きな遊びなどを丁寧に聞くことでコミュニケーションをとっている。

・急な病気や怪我の対応について、特に重要だと考える点は何か。

→発熱時は感染症の疑いもあるため、保護者の方が来るまでは、他のお子様とは分けたスペースを確保して、安全な空間を作るようにしている。怪我に対しては、救急用品や氷を常に用意し、素早く対応できるようにしている。

・平常時の安全対策及び防犯、防災対策としてどのようなことを行っているか。

→平常時は、安全チェックリスト等を活用し、設備の安全を確認している。防犯対策としては、施設の特性に合わせた日頃の対応や、マニュアルの読み合わせ、訓練等を実施している。

・見積書の中で重点的に費用をかけている点は何か。

→継続的な利用者支援のため、職員にも長く働いてもらう必要があると考えている。人件費に重点を置くことで、毎年の昇給に反映させている。

・質の確保のため、どのような考え方で職員を採用・配置していくか。

→面接時に経験者や本人の意識の高さを判断して採用している。入社した職員には、継続して研修を受講させることで質の確保をしている。

・研修は具体的にどのような研修を行っているのか。

→保育や子どもの安全に関する内容を web で研修している。大学の先生や外部の専門家に講義をしてもらうこともある。また、個人情報保護の観点からコンプライアンス研修も年に 1 回行っている。

・職員に急な欠員が出た際のフォロー体制はどのようになっているか。

→近隣の運営施設や休みの職員に連絡をして応援をお願いすることや、運営の登録スタッフに連絡して対応してもらうなど、欠員を埋める体制は整っている。

・会社全体の強みと弱みを一言でいうと何か。

→強みは、利用者ニーズをつかむ力が高いところ。そのような内容での専門研修を月に 1 回ほど実施している。弱みは、保育士不足による影響が出てきてしまっているところ。施設数の増加に伴い、人材の確保はより強化していかなければならないと考えている。

・職員間で異なる意見が出たときはどのように対応しているか。

→施設長を中心に話し合いを行って、試行錯誤していく。各職員それぞれに自分ごととして考えさせ、子どものためになる選択をするように心掛けている。

【B 事業者への質疑】（「・」は委員の発言、「→」は事業者の回答を示す）

・地域の子育て支援拠点における一時預かり事業の果たす役割及び子ども・子育てプラザとの連携で重要と考える点は何か。

→共働きやひとり親の家庭が増えているなかで、様々なニーズに対応していく必要がある。プラザやそのほかの関係機関と連携しながらの運営を目指していく。

・職員の心身の健康保持のために留意している点は何か。

→健康診断の受診率 100%を目指していて、未受診の方への声掛けや予約代行サービスの利用などを促している。心の健康のために、ライフスタイル調査を行い、全社的に心身の健康管理を行っている。

・異年齢児の一時預かりで、特に重要と考える点は何か。

→各年齢ごとに適切な遊びを提供している。異年齢でのかかわりが、発達を促す刺激になる場合もあるためサポートしていきたいと考えている。

・子どもの権利を尊重するため、子どもとの関わりで気を付けていることは何か。

→子どもの権利と尊厳を見守るようにしている。

・子どもの虐待が疑われる場合の対応として重要と考える点は何か。

→食の進み方、体のあざ、爪の長さ、自由に意見を発することができるかなど、いろいろな角度から子どもの状態をみることが重要だと考えている。

・保護者の意見・要望への対応について重要だと考える点はなにか。

→行政と会社のルールの中で対応できることを事前に確立したうえで、保護者の意見を傾聴することが大切だと考えている。一方、あまり立ち入りすぎるのもよくないと考えているため、いつでも手を差し伸べることができるスタンスに努める。

・急な病気や怪我への対応で重要だと考える点は何か。

→子どもの命を守るため、症状を素早く見分けることが重要だと考える。見分けたうえで適切な応急処置をしたい。

・熱中症等の感染症対策、及び防災・防犯対策として力を入れている点は何か。

→熱中症対策では、預かり前に水分補給をしっかりとるようにしている。顔色や検温結果など基本的な生活習慣にも留意している。防災対策では緊急連絡先を複数知らせてもらうようにしている。また、定期的な訓練の中で行政と連携して体制を構築したい。防犯対策では、お迎え時などの外部侵入者に気をつけるため、予定外の方が迎えにきた場合は、複数観点で本人確認をしたうえで引き渡す等を行っている。

・見積書の中で重点的に費用をかけている点は何か。

→スタッフの人件費の比率を高めて、ストレスなく勤務してほしいと考えている。運営費では、スムーズに現場が回るように IT ツールなどを用意して本部とも連携がとりやすいような体制を作りたい。

・質の確保のため、どのような考え方で職員を採用・配置していくか。

→月に 1 回行っている専門知識の研修に定期的に参加している保育士、普通救命講習を受講している保育士から配置したいと考えている。採用の際も、保育園や常設の保育室での勤務経験を考慮している。

・研修は具体的にどのような研修を行っているのか。

→基礎的な乳幼児の研修から、不適切保育、障害児保育について、個別に配慮が必要な子どもの対応を学ぶ研修など幅広く用意している。

・職員に急な欠員が出た際のフォロー体制はどのようになっているか。  
→運営している100施設の職員の中からシフトに入っていない職員に連絡して、緊急的に対応してもらおうことがある。本部にいる資格保持者の応援体制も整えている。

・遊びの中で工夫している点は何か。  
→限られた玩具では飽きてしまう子どもに対しては、リズム遊びや運動あそび、手作りおもちゃでの遊びなどを普段の活動に取り入れている。乳児には愛着形成のために落ち着いた遊びを、幼児には自分で作ったものを遊びに変えられるような活動をしている。

・全国的に保育士が不足している中、会社として対策していることはあるか。  
→会社内で無資格者を保育士に養成するアカデミーを運営しているため、社内で人材を確保する体制が整えられている。

【C 事業者への質疑】（「・」は委員の発言、「→」は事業者の回答を示す）

・地域の子育て支援拠点における一時預かり事業の果たす役割及び子ども・子育てプラザとの連携で重要と考える点は何か。

→地域の子育て支援拠点の役割として、乳幼児の親子や中高生の居場所づくりに力を入れていると感じた。一時預かり事業者として、プラザ職員の意向に沿いながら連携して見守りたいと考えている。

・職員の心身の健康保持のために、事業者として留意している点は何か。  
→残業時間数の管理をしている。また、会社全体で健康に関する情報の発信をしている。メンタル面に関しては、本部の人間が施設に赴くなど、第三者が介入するようにしている。

・異年齢児の一時預かりで、特に重要と考える点は何か。  
→乳児は幼児を見て笑顔になること、幼児は乳児におもちゃの貸し借りなどを通して、人との関わりを学ぶことなど、異年齢だからこそその良さを大切にしたいと考えている。また、家庭での生活リズムを崩さないように配慮して、子どもたちが快適に過ごせるようにする。

・子どもの権利を尊重するため、子どもとの関わり方で気を付けていることは何か。  
→「子どもだから」ではなく1人の人として向き合いたいと考える。1人1人を丸ごと認め、丸ごと愛したいと考える。

・虐待が疑われる場合の対応として重要と考える点は何か。  
→杉並区、本社に連絡をし、助言をもらったうえで適切な対応をしたいと考える。

・保護者の意見・要望への対応や保護者支援について重要と考える点は何か  
→しっかりと聞く時間を取り、受け止めたい。対応できることは対応したい。また、杉並区から助言をもらいながら、変えていける点を変えていき、保護者にとって満足・安心できる場所にしたい。

・急病や怪我が発生した際の対応で特に重要と考える点は何か。

→面談時や当日の預かり時に保護者から聞いたことを基に対応する。発熱時には、必要であれば保護者に連絡する。また、顔色や行動の様子によっては発熱がなくても保護者に連絡をする可能性があるが、子どもによって症状は違うので、そこはしっかりと見極めたい。怪我については、緊急性があるようなのであれば、救急を呼ぶ。その他の場合であれば応急処置をする。必要であれば保護者にも連絡をし、適切な対応をする。

・平常時の安全対策や防犯・防災に対する取組としてどのような点に力を入れていくか。

→感染症対策はしっかりしなければいけない。熱中症対策に関しては、水分補給をしっかりすることや、外遊びの時間管理、室内の温度管理、子どもの体調を逐一確認する。

防犯に関しては、確認してから鍵を開けることや、緊急時には大きな声で助けを求めることを意識する。また、本部に危機管理委員会があり、そこから注意喚起の連絡を行っている。何かあれば保護者と本部に連絡をし、場合によっては本部から応援を派遣する。

・質の確保のため、どのような考え方で職員を採用・配置していくか。また、専門性の確保や研修はどのように行っていくか。

→採用は考えておらず、安定した保育を実施するため、社内教育の済んでいる者を配置する予定。研修については、知識だけでなく意識も高める社内研修を実施している。区の研修があれば積極的に参加したい。救命救急の研修やまったく異なる分野の研修も実施し、幅広い見識を持って保育に携われるようにしている。

・職員の病気などで急な欠員が出た際のフォロー体制をどのように確保していく考えか。

→本部付け保育士、イベント保育部隊からサポートに来てもらう。

・勤務予定者名簿について、保育士はどのような年齢構成で配置しようと考えているか。

→ほかの保育施設でも、年齢バランスを考慮して配置している。ベテランの施設長から20代、30代の職員まで幅広く配置したい。

・見積書について、どの部分に重点的に費用をかけているか。

→人件費。保育は対人サービスなので人に費用をかけていくべきと考えている。

・保護者支援としての対応、配慮はどのようなことを行っているか。

→面談の際に保護者の悩みごとなどを傾聴することで、保護者との関係性を作り、預けることへの罪悪感が少なくなるような気持ちになってほしいと考えている。気軽に使ってもらえるような声掛けをしていきたい。

・男性保育士はいるか。

→認可園にはいる。

各委員の審査終了後、各委員の審査結果を選定委員会内で共有し、意見交換を行った。

○主な意見

・A 事業者に対して、実際の保育現場での具体的な事例を基にしているので、回答に具体性があり良かったとの意見があった。

・B 事業者に対して、質問に対する回答が抽象的で、具体的な保育の現場やシチュエーションを想像できなかったとの意見があった。

・C 事業者に対して、第二次審査のプレゼンテーション・ヒアリングの内容が現実に即した内容であり良かったが、その良さを企画提案内容で表現し切れていなかったとの意見があった。

各委員の審査結果について、概ね評価の傾向は一致していた。

選定委員の合意の上、配点合計に対する評価点の合計が6割以上かつ最上位の A 事業者を、受託者候補者として選定し、区へ報告した。

※審査結果は、別紙のとおり。